

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成29年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機 関 名	北海道大学	整理番号	Q01
プログラム名称	物質科学フロンティアを開拓する Ambitious リーダー育成プログラム		
プログラム責任者	長谷川 晃	プログラムコーディネーター	石森 浩一郎
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数理連携はプログラム生の研究分野の視野を広げ、異分野への壁を明らかに低くさせている。特に、D3、D2のプログラム生は研究者としての視野が広がるとともに、自ら仕掛けて周りを巻き込むなど、リーダーとしての自覚が芽生えていた。 ・数理連携のプログラムをより効率的に改革したことは、プログラム生の負担軽減につながり、各種のプログラムへの積極的な参加に貢献している。 ・数学専攻のプログラム生は物質科学や物理と数学と絡められた講義内容に満足しており、化学専攻の学生との接触によって、物質科学が必要としている数学の内容を知ることができ、化学や物理学を含めた俯瞰力が養われている。 ・独立ラボの運営では、大学院学生をリサーチアシスタントとして雇用することで、D3学生が自主的研究に集中できるようになり、運営は順調に進捗している。 ・学内、大学間での交流会の企画・運営は、リーダーに必要な積極性を身に付けさせることに大きく寄与している。 ・海外インターンシップにおいて、海外の研究所での博士の学位の必要性をプログラム生が認識できたことは評価できる。 ・プログラム生は視野の向上の観点から異分野ラボビジットを大いに評価しており、成功裏に行われている。 ・国際交流、英語学習の支援、インターンシップ、国際学会の渡航支援は、プログラム生の自立心を育て、リーダーになる意識を育てている。 ・本プログラムにおける学生の自主性と教員による指導のバランスはどちらかに寄りすぎることがなく、学生には好評である。 ・数理連携の各種プログラムでプログラム生は確実に育っており、発足時の目標を超える成果が期待できる。 ・プログラム生が本プログラムに参加することに対する一部教員の不十分な理解に関しては、プログラム生の研究室の活動や研究室への影響等の調査をプログラム生が在籍する全教員に対して行い、プログラム教員と指導教員との意見交換会を開催し、その情報を全教員で共有したことで中間評価の現地調査時に比べて大きな改善がされたと判断できた。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム生は研究者として成長しているだけでなく、リーダーとしての自覚も育ちつつあり、リーダーを育てる本プログラムは順調に進捗している。面談したプログラム生全員が数理連携プログラムの継続を強く望んでおり、予算は減っているが、予算配分の再検討を行い、何らかの形で本プログラムが継続されることを強く希望する。 			